

私のセンチメンタルジャーニー オキユパイド・ジャパンの人形を求めて

二十六回生 奥田（渡部）英子

今年の春も仕事の夫に付いて、アメリカのペンシルバニア州とマサチューセッツ州で春と秋に行われる大きなアンティークフェア^①に行つて来ました。全米からトラックに高価な物から、ガラクタと言つてもいいような物まで一杯に詰め込んだ業者が集まり、それぞれテントを張ります。日本からもジュエリー、若者向けの古着、レースから家具や建具、看板などかさばるものまで、買う気充分の業者が集まります。普段静かな田舎町が、お目当ての物を購入する業者や一般客などで人口が何十倍にも膨れあがり賑やかに、ホテルも3倍近い料金になります。

最近自宅からパソコンで目当てのものが探せるインターネットのオークション^②サイトが盛んになり、また業者の老齢化もあつて、テントの数が

段々減っているようで淋しく思っています。しかし、浜辺の砂の中から十円玉を探すように効率が悪くても、品物を直に確かめ、思わぬ掘り出し物を見つけて、値段交渉をする醍醐味は捨てがたいものです。以前私もインターネットオークションに参加しましたが、購入品がイメージとかなりかけ離れたり、印（マーク）が水で消えたりなど、ガツカリすることもありました。

ところで今回も行ったマサチューセッツ州のボストンに近いブリムフィールドは、全米で行われる数多くのフェアでも1、2位に入る大きな規模です。町からかなり離れた、池や林など豊かな自然の環境の中で、火曜日から日曜日迄の5日間約1キロの道沿いの広大な草地に数千（実数は判りません）のテントが張られ、まだ暗い朝5時頃から業者や一般客が掘り出し物を探しに集まります。アンティークの内容はジュエリーから家具や銃、馬車等小さなものから大きなものまで種々雑多です。

私がこのような場所に行く目的の一つは、メイ

ド・イン・オキユパイド・ジャパンという印の付いた陶器の人形を探して連れて帰ることです。

敗戦後GHQの命令で、1947年から1952年の間、日本からアメリカに輸出する機械から陶器、人形、衣類、日常品の雑貨に至るまでメイド・イン・オキユパイド・ジャパン(MADE IN OCCUPIED JAPAN)という印が付けられました。

私がこの印を知るきっかけになったのは、夫の仕事でロスアンジェルズに移り住んだ32年前にさかのぼります。その頃何かとお世話になったアメリカ人の友達が連れて行ってくれたアンティークショップで、暗い店の隅に置かれたガラスのケースの中にある拙い彩色の陶器の人形に視線を感じて手に取ると、他の似たような人形(MADE IN JAPAN)に比べて値段が高いのに気付きました。そしてそのわけを聞いて印の存在と意味を知りました。敗戦後の貧しい状況で作られた拙い人形達^①の目は悲しさをたたえているようでした。

そしてオキユパイドという印に何とも言えない屈辱感と悲しさを感じました。家に帰り、お湯で丹念に洗いながら、帰国の際には連れて帰ろうと

いう気持ちが強くなりました。

*①②：等の丸数字はカラーページの番号に対応
ある店で椅子に座って手をストープにかざしているような女性の人形に出会いました、何かと組なのではないか気に掛けて探すうちに、他の店でピタリと合うピアノを見つけました。カップルなのにバラバラにされて一体づつ売られている人形は沢山あります。

その後アメリカ各地で幾つものオキユパイド・ジャパンの人形と出会う内に、日本の優れた彩色技術を施した精巧な人形達と出会うようになりました。それらには製造会社の名前が無いものも多いのですが、中にはモリムラ、マルヤマ、アンドレアなどの商標があり、優れた技術が伺えます。

とても高価なマイセンの人形と一見して見分けが付かないもの^②、ゴーベル社のハンメル人形に劣らない子供の人形達^③、動物など、その種類の多さに驚きます。このようなオキユパイド・ジャパンの人形達の多くを製造した瀬戸では、この人

形達や鳥、動物を形取った陶器をセト・ノベリテイと呼んでいます。

第一次世界大戦以降、ドイツからアメリカへの高級陶磁器の供給が途絶えたため、日米貿易の草分けと言われている森村組が、アメリカ人中流市民層の高いニーズに目を付け、マイセン（ドレスデン）やハンメル（ゴーベル社）等の安価なコピートの製造を、優れた技術を持つ瀬戸焼の丸山製陶に依頼し、ニューヨーク支社である森村ブラザーズという商社を通して、輸出したということです。

森村組を調べて行くうちに、森村組の設立には福沢諭吉の貿易をして外貨を稼ぐことの必要を説いたアドヴァイスがあることを知りました。森村組は後のノリタケ（1981年社名を変更）の前身である日本陶器を1904年に設立し食器や花瓶を盛んに輸出していました。

戦後5年間はこのようなノベリテイや食器、花瓶等の陶磁器類、セルロイドやブリキ製などの玩具、アメリカの各地の名所のお土産用の金属製灰皿④、紙製の玩具や布製の造花などが、オキユパイド・ジャパンの

印を付けてアメリカに輸出されました。

アメリカにはOJクラブというオキユパイド・ジャパンを収集する人達の会があるようですが、彼らが来日して、瀬戸のある日本の工場に、輸出せず在庫で残っているオキユパイドを購入したいと言ったら、年を取った工場主が自分の生きていくうちは恥と思うものを売りたいと言われたという話を聞いたことがあります、その気持ちは充分理解できます。

以前もつと詳しい情報を得ようと オキユパイドジャパンの人形達の多くが作られた愛知県瀬戸焼の博物館や、東京千代田区の昭和館に行きましたが多くを得ることは出来ませんでした。

2000年1月 埼玉県平和資料館を訪れた時、偶然なことに50万人目の来訪者ということで、記念品や花束を頂き、地方新聞にも載り驚きました。その2年後、私の人形達もそのご縁で戦後の日本をテーマにした展示会に出展させて頂きました。

収集した中でも私の気に入っている人形は、美術館で見たことのあるマイセンの「お猿の楽隊」をコピーした繊細なもの⑤、黒崎義介の童話の世界から抜け出てきたようなカタツムリ、カブトムシ、クワガタ、カエル、テントウムシ、キリギリスにそれぞれ乗った男の子達⑥、くるみちゃんと呼ばれる人形⑦などです。

この中で、キリギリスに乗った男の子は長年見つからず半ば諦めていましたが、一昨年の春、フエアール最終日の夕方でも人も少なくなっていた頃、歩き疲れて朦朧としていた時に、老婦人が片付けもしないで椅子に座っているテントが目に入りました。うす暗い中をゆっくり見回すと、あの探していたキリギリスに乗った男の子が目飛び込んできて一瞬目を疑いました。今でも何かの力で導かれたように思います。昨年そのテントを探しましたがもう見つかりませんでした。

何年も通う内に、店の主人達から興味深い話を聞くことも楽しみになりました。戦後日本の基地に駐屯した人から、日本軍の強さにどんなにか日

本人が文化的な生活をしているかと思ったら、現実に見てその貧しさに驚き「すまないことをした」と言った人、また別の人は「日本の野菜は肥樽（ハニーバケット）からの人糞を肥料にしていたので寄生虫を恐れて、基地の中では全て野菜はアメリカから輸送していた」等色んな話を聞きました。そして逆に「どうしてオキユパイド・ジャパンを集めるの？」と聞かれ「オキユパイドという名称が嫌いだから」と言うと、ニヤッと笑って「じゃあ、日本に持って帰って割るんだろう」と言われました。

彼らと値段を交渉するうちに、購入するコツも少し会得出来たかなと思っています。

ニッコリ笑って挨拶し、そして指が欠けたりキズがある欠陥品でないか指で丹念に確かめて、欲しくても焦らずにゆっくり値段を交渉します。

今回の買い物では、ピューター製の可愛い小さい犬のオルゴールを見つけて手に取ると、ズッシリ重くオルゴールの器械は三協製、良い物だと分かり値段を見ると35ドルと付いていました。あま

①最初に出会った人形達：目の位置がずれたりして、技術は拙く敗戦後の厳しい状況下、手内職で絵付けされたものと思われます。



②カップル：マイセン（ドレスデン）の人形を思わせる優れた技術で作られている、マルヤマの商標があります。



り古くないしと思いつながらその場を離れましたが、どうしても欲しくなりまた戻りました。「28ドルではどうでしょう」と言うと「25ドルで良いわよ」これは私のお気に入りだから貴女だったら譲りたいわ」と言われて、客の言う値段より安くするなんてこんなことは滅多に無いので嬉しくなりました。

ところで、アメリカではアンティークと称していても、ヨーロッパと違い、中古品に近いコレクションと呼ばれる物が多いのですが、若いときに購入した思い出の品、両親が使った物、それに先祖の写真など一寸理解しがたい物まで売ってお店もあります。思入れのある品物には思い出料が値段に加わり、彼女たちが若かった時の長い話もおまけに付けて来ます。

私のオキユパイド・ジャパンから始まった収集は、今ではファイヤーキング、ミルクガラス、カーニバルガラス、グリーディングカード、カーテンプンなどに広がり、その時代背景にも興味湧

きます。これから先も出来る限り続けて行きたいと思えます。

アンティークショップに入るとゆっくり過去に逆戻り、時間はゆったり流れるように感じます。そして、昔のジャズや若い頃流行った曲の流れる薄暗い店の中で、私の気持ちは若い頃に帰って行くように思います。

追記 東日本大震災の起こった3月11日私たちはニューヨークにおりました。CNNが一日中流す津波や原発事故、懸命の救助作業の映像に被害に遭われた方々のことを思い胸が痛みました。東京の家がどうなったのか、無防備で置いてあった人形たちは大丈夫か心配でしたが、娘からメールが来て、「様子を見に行ったが別に壊れたものは無いみたい」とのこと取り敢えず一安心、息子が午前様になってようやく辿り着いた自宅では食器棚が倒れて食器類はほぼ全滅とのことでした。

3月14日に帰国して調べたところ、千個程もある人形の内壊れたのは2個だけ、余震に備えて大事なものには梱包して箱詰めにしました。

⑤マイセンの「お猿の楽隊」のコピー：アンドレアの商標があり、ヒューストンのアンティークモールで棚の一番上にあつたのを、見つけられたのは奇跡。本物は美術館で見たことがあります。



⑥動物に乗る男の子：あちこち探しながら少しずつ揃えていきました。ヒューストンでの初めての出会いを思出します。アメリカでも人気があります。



③子供達：ドイツゴーベル社製ハンメル人形のコピー、色々なポーズものを持っていますが、今は箱の中に仕舞っています。



④金属製の灰皿：ニューヨークの自由の女神、フィラデルフィアの動物園、ナイアガラの滝など、全米の名所での土産用として日本に注文されたもの。





⑦ いろいろな動物の足を使ったハンガーラック

これは鹿の足ですが、ムースの足を使った大きなものもありました。

沢山並んだ本物の銃

ピストルの刻印は美しい、銃の他に日本刀（大したものではない）やサーベルも並んでいます。



コココーラの紙コップやポップコーンの袋まで売っています。

コココーラ関係は人気がありトレー、ガラスコップから中身の入ったビンまでありました。

ミルクビンの紙蓋

これだけの数を集め、それを又買う人がいるとは驚きです。ミルクビンの古い物は重いけれど刻印がされてとても味があります。



⑧ クルミちゃん：喜一のぬり絵に出てくる、日本の子供を思わせます。



⑨ 昔ロスアンジェルスで制作したティファニー風ランプと一緒に



<アンティークフェア会場で 小物から車まで>



昔のブローチは安価でデザインが面白い
高い物はかぎ付きのケースの中に



クラシックカーは大人気（見るだけ）